

第 13 回周南市水素利活用協議会 議事要旨

日 時 令和 5 年 11 月 27 日 (月) 10:00~12:00

場 所 周南市役所本庁舎共用会議室 G (Web 開催)

出席者 別添名簿のとおり

議事概要 (1) 第 2 次周南市水素利活用計画の策定について

<事務局>

- ・第 2 次周南市水素利活用計画の骨子案と今後のスケジュールについて説明。
- ・計画策定委託事業者に大日本コンサルタント株式会社 (現在は大日本ダイヤコンサルタント) を選定した。
- ・第 2 次計画は、「周南市水素利活用構想」(平成 26 年策定) に基づき、前期計画である現在の「周南市水素利活用計画」に続く、後期計画の位置付けとする。
- ・2050 年カーボンニュートラルの実現に向けた「手段」の 1 つとして「水素」を位置付け、2030 年までの期間に実現可能な取組を中心に記載する。
- ・国の水素基本戦略と同様、計画上の水素はアンモニアや合成メタン・合成燃料を含むと定義する。

以下、出席者からの主な意見

- ・水素はエネルギーなので全分野に影響することを念頭に置くこと。
- ・カーボンニュートラルを目指すときに全分野を俯瞰して、類似の計画と整合もしながら未来を創っていく構えで臨んでいく必要がある。
- ・毎日変化する時代なので、対応は柔軟に行う必要がある。
- ・アンモニア等あらゆる新しいものを全て含めて、水素とカーボンニュートラルをどう擦り合わせていくかという角度で、少しスタンスを変えて物事を見ていく必要がある。
- ・燃料電池列車の導入には、水素の調達をセットで考える必要があり、市と連携する形で水素の供給体制を作っていくことを検討。
- ・「副生水素等による大規模水素供給・利活用モデル (周南モデル) の構築と定量化に関する調査」(NEDO) で、地域全体の水素の需給調査を実施。報告書をまとめているので参考にされたい。
- ・NEDO の調査事業において各政策との整合が課題であると報告書でまとめた。協議情報が開示されない中、各種計画とどのように整合を図るか疑問。
- ・経済産業省では、グリーンイノベーション基金などの施策を用意し、企業の前向きな取組を後押ししている。また、足元では今年の 6 月に水素基本戦略を改定し、規制面いわゆる水素保安の面も含めた一体型の支援の構築に取り組んでいる。
- ・県では、水素分野を含む環境・エネルギー関連分野等の研究開発や事業化を支援、また、本県の水素関連産業の裾野の更なる拡大を図るための補助、水素に関する技術セミナーの開催等を行ってきた。引き続き、市町としっかり連携しつつ、また、本協議会の意見を賜りながら取組を前に進めたい。